

重点項目	重点項目別ビジョン	NO	基本戦略	NO	個別戦略	責任主体	2021年度の目標	2022年度の目標	2023年度の目標	2024年度の目標	5年後の到達目標（学校目標） （2025年度末）
		1	社会に必要とされる教育を提供すること（ディプロマポリシーにおける学修成果を目指す教育をカリキュラムポリシーに沿って遂行）	(1)	社会ニーズを踏まえた実験・実習・実技・文理横断型（例えば、建築と福祉の融合等）カリキュラムへの見直し	2.各校 3.教務委員会・高校・高等課程委員会	・過年度の学部卒業生に対するアンケート調査、卒業生の就職先等の進路先に対してアンケート調査を行い、その結果についての集計、分析を実施する。	・大学機関別認証評価を受審するため、基準に合ったカリキュラムの整備を行う。	・アンケート調査の結果による、見直したカリキュラムの評価、修正を教務委員会で行う。 ・大学機関別認証評価を受け「適合」の評価を得る。 ・認証評価での指摘事項に関するカリキュラムの改善を行う。	・本学の教育リソースを広く提供し、講義の教材としての利用、自主学習ツールとして活用数を3とする。	・年2回の学外の参画を得た定期的な点検・評価サイクルを進め、自己点検評価報告書の作成する。 ・ICTを活用した双方向型授業やe-ラーニングができる。
					行動計画	2021	・卒業後アンケートの実施、評価の低い項目があればカリキュラムの見直し	・過年度の学部卒業生に向けたアンケートの作成と実施。 ・卒業後の進路先アンケートの作成と実施。卒業後アンケートの実施、評価の低い項目があればカリキュラムの見直し	・認証評価受審による評価への対応 ・オープンな教育リソースの検討と整備 ・アンケート結果を受けて追加、修正した科目の評価	・提供しているオープンな教育リソースの実績評価 ・ICTを活用した双方向授業やe-ラーニングのインフラ整備 ・大学機関別認証評価時の指摘事項の改善策検討	・ICTを活用した双方向授業やe-ラーニングの評価
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価	C	B	A	B	
						評価理由	・過年度の学部卒業生に向けたアンケートを実施できていない。 ・卒業後の進路先アンケートを実施できていない。	・卒業生にアンケートを実施。 ・過年度の学部卒業生に向けたアンケートを実施できていない。	・大学機関別認証評価を受け「適合」の評価を得た。 ・2021 年度に学生からの意見を基にカリキュラム検討した結果と実施状況（履修者数、科目GPA、授業満足度）をまとめ学科にフィードバックした。	・GoogleClassroomによる課題展開 & 提出・小テストなどが定着した。 ・学位論文の評価基準を定め公表した。 ・大学機関別認証評価の指摘事項に係る改善策として、2026年度入学生より、定員変更を行うことが決まった。	
						改善点	・2022年度では過年度の学部卒業生に向けたアンケートの作成と実施していく。 ・2022年度では卒業後の進路先アンケートの作成と実施していく。	・2023年度では過年度の学部卒業生に向けたアンケートの作成と実施していく。	・なし	・本学の教育リソースを広く提供できるよう、自主学習を作成していくことを検討する。	
				(2)	愛知県（東海地域）の文化や産業を活用した地域の学びの実践（課外活動、体験活動の充実）	2.各校	・地域社会への協力 ・企業等の実データを用いて、組織の課題解決に資するデータ分析等を行う実践的なデータサイエンス教育の科目の継続 ・インターンシップ参加者150名	・地域社会への協力 ・企業等の実データを用いて、組織の課題解決に資するデータ分析等を行う実践的なデータサイエンス教育の科目の継続 ・インターンシップ参加者155名	・地域社会への協力 ・企業等の実データを用いて、組織の課題解決に資するデータ分析等を行う実践的なデータサイエンス教育の科目の継続 ・インターンシップ参加者160名	・地域社会への協力 ・企業等の実データを用いて、組織の課題解決に資するデータ分析等を行う実践的なデータサイエンス教育の科目の継続 ・インターンシップ参加者160名	・地域社会への協力 ・企業等の実データを用いて、組織の課題解決に資するデータ分析等を行う実践的なデータサイエンス教育の科目の継続 ・インターンシップ、オープンカンパニー参加100名
					行動計画	2021	・高大連携活動の継続 ・インターンシップ説明会の実施 ・企業の方を招いてインターンシップ発表会を実施 ・教員によるインターンシップ先の訪問	・高大連携活動の検証 ・インターンシップ説明会の実施と検証 ・企業の方を招いてインターンシップ発表会を実施と検証 ・教員によるインターンシップ先の検討、訪問	・高大連携活動の継続 ・インターンシップ説明会の実施 ・企業の方を招いてインターンシップ発表会を実施 ・教員によるインターンシップ先の訪問	・高大連携活動の継続 ・インターンシップ説明会の実施と検証 ・企業の方を招いてインターンシップ発表会を実施と検証 ・教員によるインターンシップ先の検討、訪問	
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価	B	B	B	B	
						評価理由	・コロナ禍ではあるが、高校の要望に応じ、高大連携授業を 2 校と実施した。 ・例年参加している高校生向け講座のラーニングフェスタがリモート実施となったが、3 つの講座を提供した。 ・インターンシップの参加者は15名で、11月に報告会を実施した。	・今年度も高大連携授業を複数回実施した。 ・高校生向け講座のラーニングフェスタ（リモート実施）に 3 つの講座を提供した。 ・大学がとりまとめるインターンシップは中止となったが、自主的に参加した学生によるインターンシップ報告会を実施した。 ・教員によるインターンシップ先の訪問は行えなかった。	・高大連携授業を複数回実施した。 ・高校生向け講座のラーニングフェスタ（リモート実施）に 4 つの講座を提供した。 ・大学がとりまとめるインターンシップに参加した学生による報告会を実施した。 ・教員によるインターンシップ先の訪問は行えなかった。	・高大連携授業を複数回実施した。 ・愛知県立幸田高校と連携協定を締結した。 ・インターンシップに参加した学生による報告会を実施した。 ・教員によるインターンシップ先の訪問は行えなかった。 ・モノづくり博in東三河2024に出展し、招待講演を行った。 ・IoT・AI実践実習において地元企業と連携した。また、地域振興プログラムで蒲郡市と幸田町と連携しPBL教育を実施した。	
						改善点	・コロナ禍の状況を見極めつつ、高校と企業との連携を正常化していく。	・コロナ禍の状況を見極めつつ、高校と企業との連携を正常化していく。	・教員によるインターンシップ先の訪問を行う。	・教員によるインターンシップ先の訪問を行う。	

重点項目	重点項目別ビジョン	NO	基本戦略	NO	個別戦略	責任主体	2021年度の目標	2022年度の目標	2023年度の目標	2024年度の目標	5年後の到達目標（学校目標） （2025年度末）
教育	1. 社会で活躍する実践的・創造的なプロフェッショナル人材に育てます 2. 多様性を受容し、豊かなコミュニケーション能力と歓迎される人柄を持てるように育てます 3. 大変革時代にも柔軟かつ力強くリードできるように育てます 4. 自立的・協働的な姿勢で、社会課題の解決に挑戦する気持ちを備えるように育てます	2	新たな学びに対応できる教育環境を整備すること	(3)	ICT教育の推進、遠隔授業のコンテンツ拡充	1. 計画 2. 各校 3. 教務委員会	・遠隔授業やオンライン教材等を用いたオンデマンド型の遠隔授業の実施。	・遠隔授業やオンライン教材等を用いたオンデマンド型の遠隔授業の評価と改善の実施。	・遠隔授業やオンライン教材等を用いたオンデマンド型の遠隔授業の評価と改善の実施。	・遠隔授業やオンライン教材等を用いたオンデマンド型の遠隔授業の評価と改善の実施。	・遠隔授業やオンライン教材等を用いたオンデマンド型の遠隔授業の評価と改善の実施。
					行動計画	2021	・ZoomやGoogleMeetによる遠隔授業の実施	・Google Classroomを主体としたオンデマンド教材の充実 ・ZoomやGoogleMeetによる遠隔授業の評価と改善 ・スタジオ利用によるコンテンツ制作の実施	・Google Classroomを主体としたオンデマンド教材の充実 ・ZoomやGoogleMeetによる遠隔授業の評価と改善 ・スタジオ利用によるコンテンツ制作の講習会実施 ・オープンな教育リソースの検討	・ZoomやGoogleMeetによる遠隔授業の評価と改善 ・スタジオ利用によるコンテンツ制作の講習会実施 ・提供しているオープンな教育リソースの評価 ・ICTを活用した双方向授業やe-ラーニングのインフラ整備	・ZoomやGoogleMeetによる遠隔授業の評価と改善 ・スタジオ利用によるコンテンツ制作の講習会実施 ・ICTを活用した双方向授業やe-ラーニングの評価
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価	B	B	A	B	
						評価理由	・多くの授業科目において対面授業をベースとしながらも、Google Classroomを使用した予習や復習にオンデマンド型の課題を提示することができた。 ・対面授業に置き換えて一部に遠隔授業を取り入れたハイブリッド授業を設計したのは2科目で、そのうちに実施できたのは1科目のみ。	・多くの授業科目において対面授業をベースとしながらも、Google Classroomを使用した予習や復習にオンデマンド型の課題を提示することができた。 ・密を避ける目的で複数教室をGoogleMeetで結んだ遠隔授業を取り入れたハイブリッド授業を実施。	・多くの授業科目において対面授業をベースとしながらも、Google Classroomを使用した予習や復習にオンデマンド型の課題の活用が定着した。 ・スタジオ利用によるコンテンツ制作の講習会実施 ・オープンな教育リソースの検討 ・数理・データサイエンス・AI教育プログラムの認定制度に向け実績を積んだ。	・Google Classroomを使用した予習や復習の課題活用が定着した。 ・スタジオ利用によるコンテンツ制作の講習会を実施した。 ・googleClassroomの活用によって実現済み。 ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の認定を受けた。	
						改善点	・課題だけでなく映像講義による予習推進を図る。	・課題だけでなく映像講義による予習推進を図る。	・数理・データサイエンス・AI教育プログラムの認定に向け、「情報リテラシー」の授業内容を検討した。	・オープンな教育リソースを提供できるか検討していく。	
				(4)	学生や生徒が教職員と協働できる体制を整え、時代の変化に左右されない教養教育（リベラルアーツ）を支援	2. 各校 3. 教務委員会・高校・高等課程委員会	・基礎学力向上に向けた基礎・教養科目の検討・見直し	・基礎学力向上に向けた基礎・教養科目の実施評価と改善	・基礎学力向上に向けた基礎・教養科目の実施評価と改善	・基礎学力向上に向けた基礎・教養科目での学びの成長を検証し改善	・基礎学力向上に向けた基礎・教養科目の実施評価と改善
					行動計画	2021	・総合教育センター運営委員会において基礎・教養科目の検討・見直し	・総合教育センター運営委員会において基礎・教養科目の実地評価と改善 ・CASEC、工学基礎力試験による成果の確認	・総合教育センター運営委員会において基礎・教養科目の実地評価と改善 ・CASEC、工学基礎力試験による成果の確認	・総合教育センター運営委員会において基礎・教養科目での学びの成長を検証 ・CASEC、工学基礎力試験による成果の確認	・総合教育センター運営委員会において基礎・教養科目での学びの成長を検証し改善 ・CASEC、工学基礎力試験による成果の確認
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価	A	A	A	A	
						評価理由	総合教育センター、基礎教育部門で見直しを実施した。	・CASEC、工学基礎力試験による成果の確認を実施。	・CASEC、工学基礎力試験による成果の確認を実施した。 ・工学基礎力試験の内容見直しを行った。	・CASEC、プレースメントテスト、アチーブメントテストによる成果の確認を実施した。	
						改善点	見直し、改善を継続的に行っていく。	なし	・総合教育センターにより工学基礎力試験(数学アチーブメントテスト2期)の問題を見直した。(行列→ベクトル)	なし	
				(5)	生涯学習環境の整備	2. 各校 3. 教務委員会・					
					行動計画	2021					
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価					
						評価理由					
						改善点					
			新たな学びに対応できる教育環境を整備すること	(6)	各奨学金制度など修学上の支援に加え、進路選択や心身の健康等安心安全な生活上の支援を充実	2. 各校 3. 教務委員会・高校・高等課程委員会	・学生のための公的・私的機関の奨学金制度説明会を実施【対象者全て】	・学生のための公的・私的機関の奨学金制度説明会を実施【対象者全て】	・学生のための公的・私的機関の奨学金制度説明会を実施【対象者全て】	・学生のための公的・私的機関の奨学金制度説明会を実施【対象者全て】	・学生のための公的・私的機関の奨学金制度説明会を実施【対象者全て】
					行動計画	2021	・オリエンテーション時に説明会を実施する。	・オリエンテーション時に説明会を実施する。 ・説明会の内容の検証	・オリエンテーション時に説明会を実施する。 ・説明会の内容の改善 ・奨学金制度の検討	・オリエンテーション時に説明会を実施する。 ・説明会の内容の検証 ・奨学金制度の改善	・オリエンテーション時に説明会を実施する。
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価	A	A	A	A	
						評価理由	・オリエンテーションで説明会を実施した。	・オリエンテーションで説明会を実施した。	・オリエンテーションで説明会を実施した。	・オリエンテーションで奨学金説明会を実施した。	
						改善点	なし	なし	なし	なし	

重点項目	重点項目別ビジョン	NO	基本戦略	NO	個別戦略	責任主体	2021年度の目標	2022年度の目標	2023年度の目標	2024年度の目標	5年後の到達目標（学校目標） （2025年度末）	
		3	学生や生徒の生活支援を充実すること	(7)	資格取得率の向上	2.各校	・資格対策講座（補習）を実施。 ・1 級自動車整備士取得100%					
					行動計画	2021	・CAD利用技術者試験の学内受験 ・基本情報技術者の午前試験免除 ・1 級自動車整備士取得に向けての補習の実施	・CAD利用技術者試験の学内受験 ・基本情報技術者の午前試験免除 ・1 級自動車整備士取得に向けての補習の実施 ・機械設計技術者3級の取得支援	・CAD利用技術者試験の学内受験 ・基本情報技術者の午前試験免除 ・1 級自動車整備士取得に向けての補習の実施 ・機械設計技術者3級の取得支援	・CAD利用技術者試験の学内受験 ・基本情報技術者の午前試験免除 ・1 級自動車整備士取得に向けての補習の実施 ・機械設計技術者3級の取得支援	・CAD利用技術者試験の学内受験 ・基本情報技術者の午前試験免除 ・1 級自動車整備士取得に向けての補習の実施 ・機械設計技術者3級の取得支援	
						2022						
						2023						
						2024						
					振り返り	達成評価	A	A	A	A		
						評価理由	・3 つの項目に加えて機械技術者3級ついて実施できた。	・4 項目とも実施できた。	・4 項目とも実施できた。	・4項目とも実施できた。		
						改善点	・受験者数の増加および合格者率の向上。 ・他の資格についての検討。	なし	なし	なし		
				(8)	学生や生徒の就職活動を支援する体制と学生や生徒一人ひとりの適性と希望にあった指導の充実	2.各校 3.就職委員会	・キャリアセンターからの企業情報の更新。 ・キャリアセンター委員会の情報共有 ・学内企業説明会を実施	・キャリアセンターからの企業情報の更新。 ・キャリアセンター委員会の情報共有 ・学内企業説明会を実施	・キャリアセンターからの企業情報の更新。 ・キャリアセンター委員会の情報共有 ・学内企業説明会を実施	・キャリアセンターからの企業情報の更新。 ・キャリアセンター委員会の情報共有 ・学内企業説明会を実施	・キャリアセンターからの企業情報の更新。 ・キャリアセンター委員会の情報共有 ・学内企業説明会を実施	
					行動計画	2021	・就職支援システム（キャリアスUC）の導入、運用	・就職支援システム（キャリアスUC）の運用	・就職支援システム（キャリアスUC）の運用評価と改善	・就職支援システム（Jネット）の運用評価と改善 ・適性診断をマイナビ社Match plusに変更し、運用評価をする。	・就職支援システム（Jネット）の検証 ・中部学生就職連絡協議会連合会 専門部会のリーダー校として、他大学や地元中小企業との連携を図り、幅広いネットワークを構築していく	
						2022						
						2023						
						2024						
					振り返り	達成評価	A	A	A	A		
						評価理由	・キャリアスUCを導入し、運用することができた。	・キャリアスUCの運用は問題なくできている。	・キャリアスUCの運用は問題なくできている。	・就職支援システム（J ネット）の運用は問題なくできている。また、インターンシップなどの新たな機能を追加して活用している。		
						改善点	・就職内定者が最終決定情報を入力するまでに日数がかかったため、学生への周知を徹底する。	なし	・次年度よりベネッセ社GPAアカデミックによる適性診断をマイナビ社Match plusに変更(同等な内容で費用が掛からないため)する。 ・キャリア教育にフォーラムエンジニアリング社のエンジニア職セミナーによる企業マッチングを導入	・アセスメント(マイナビMatch plus)、就職模試(マイナビ)、学内企業研究会(秋および冬)などの学生支援について評価を行う。		
研究	イノベーションの創出を強く意識して社会の持続的発展を目指した学術研究を推進し、その成果を地域と世界に発信します	4	社会課題の解決に資する研究に対応できる研究環境を整備すること	(9)	多様な研究力を引き出す支援体制の強化	2.各校	・愛知工科大学シーズ集の更新、外部に公表し活用。 ・外部資金獲得による研究環境整備	・愛知工科大学シーズ集の更新、外部に公表し活用。 ・外部資金獲得による研究環境整備	・愛知工科大学シーズ集の更新、外部に公表し活用。 ・外部資金獲得による研究環境整備	・愛知工科大学シーズ集の更新、外部に公表し活用。 ・外部資金獲得による研究環境整備	・愛知工科大学シーズ集の更新、外部に公表し活用。 ・外部資金獲得による研究環境整備	
					行動計画	2021	・研究所の開設	・科研費応募10件以上となるよう指導・支援する	・科研費応募10件以上となるように指導・支援する	・科研費応募10件以上となるように指導・支援する	・科研費応募10件以上となるように指導・支援する	
						2022						
						2023			・科研採択数を3 件以上	・科研採択数を3 件以上（基盤Bが1 件）		
						2024						
					振り返り	達成評価	B	A	A	B		
						評価理由	・未来材料科学研究所、先進バーチャルリアリティ研究所を開設し、活動ができています。	・10件以上の科研費応募達成	・19件の科研費応募となった。 ・今年度の科研採択数は1 件であった。	・18件の科研費応募となった。 ・今年度の科研採択数は2件であった。		
						改善点	・研究シーズ集の更新を進めていく。	なし	なし	・科研費採択件数が3件となるよう説明会を開催する。		
		5	学園の持つ教育技法をナレッジマネジメントとして蓄積し応用すること	(10)	教授法や教材開発に関する研究への支援	1.学園 2.各校	・学内における公開授業の継続開催 ・ベストレクチャラーの表彰	・学内における公開授業の継続開催 ・ベストレクチャラーの表彰	・学内における公開授業の継続開催 ・ベストレクチャラーの表彰	・学内における公開授業の継続開催 ・ベストレクチャラーの表彰	・学内における公開授業の継続開催 ・ベストレクチャラーの表彰	
					行動計画	2021	・FD委員会にて授業評価の検証と改善 ・ベストレクチャラーによるFD講演会の実施	・FD委員会にて授業評価の検証と改善の検討 ・ベストレクチャラーによるFD講演会の実施	・FD委員会にて授業評価の検証と改善 ・ベストレクチャラーによるFD講演会の実施	・FD委員会にて授業評価の検証と改善 ・ベストレクチャラーによるFD講演会の実施	・FD委員会にて授業評価の検証と改善 ・ベストレクチャラーによるFD講演会の実施	
						2022						
						2023						
						2024						
					振り返り	達成評価	A	A	A	A		
						評価理由	公開授業は実施した。 ベストレクチャラー賞の表彰を行った。	・FD委員会での検討、ベストレクチャラーのFD講演会ともに実施	・FD委員会での検討、ベストレクチャラーのFD講演会ともに実施	・FD委員会での検討、ベストレクチャラーのFD講演会ともに実施		
						改善点	なし	なし	なし	なし		

重点項目	重点項目別ビジョン	NO	基本戦略	NO	個別戦略	責任主体	2021年度の目標	2022年度の目標	2023年度の目標	2024年度の目標	5年後の到達目標（学校目標） （2025年度末）
社会 貢献	1. 学園と地域社会の緊密な連携を進め、地域の具体的な課題解決に貢献し、新たな社会価値の創造に寄与します 2. 地域課題の解決に資する教育研究を推進し、その知見や経験を地域の特性を踏まえた産学連携を通じて地域社会に還元します	6	地域社会と協創し、未来の価値創造へ貢献すること	(11)	市民・自治体・地元企業・大学・海外などセクターを超えた多様な主体と連携（研究、事業）し、地域課題を解決して世間から注目される	2.各校 3.学園交流委員会	・蒲郡市、幸田町との連携協定にもとづく、地域課題解決科目の継続 ・少年少女発明クラブの受け入れ ・外部からの共同研究依頼等への対応支援継続	・蒲郡市、幸田町との連携協定にもとづく、地域課題解決科目の継続 ・少年少女発明クラブの受け入れ ・外部からの共同研究依頼等への対応支援継続	・蒲郡市、幸田町との連携協定にもとづく、地域課題解決科目の継続 ・少年少女発明クラブの受け入れ ・外部からの共同研究依頼等への対応支援継続	・蒲郡市、幸田町との連携協定にもとづく、地域課題解決科目の継続 ・少年少女発明クラブの受け入れ ・外部からの共同研究依頼等への対応支援継続	・蒲郡市、幸田町との連携協定にもとづく、地域課題解決科目の継続 ・少年少女発明クラブの受け入れ ・外部からの共同研究依頼等への対応支援継続
					行動計画	2021	・公開講座への講師派遣 1 名 ・受託研究、共同研究の受け入れ（それぞれ 2 件）	・公開講座への講師派遣 2 名 ・受託研究、共同研究の受け入れ（それぞれ 2 件以上）	・公開講座への講師派遣 2 名以上 ・受託研究、共同研究の受け入れ（それぞれ 3 件）	・公開講座への講師派遣 2 名以上 ・受託研究、共同研究の受け入れ（それぞれ 3 件以上）	・公開講座への講師派遣 2 名以上 ・受託研究、共同研究の受け入れ（それぞれ 3 件以上）
				(12)	振り返り	達成評価	A	A	A	B	
						評価理由	・リトアニア・岐阜県共同イベント「リトアニア Now！」内講師（尾関） ・春日部市男女共同参画センター「ハーモニーフェスタ2021」基調講演講師（小林直）	・講師派遣、受託研究、共同研究の受け入れともに達成	・講師派遣、受託研究、共同研究の受け入れともに達成	・講師派遣2名以上達成できた。 ・受託研究は2件であった。 ・共同研究は6件と増加した。	
						改善点	コロナ感染症の状況を見ながら、少年少女発明クラブを実施する。	なし	なし	・受託研究の受け入れ数を3件以上となるよう、外部にアプローチしていく。	
					研究成果の実装・住みたい地域をつくるための学びの場づくり	1.学園 2.各校 3.学園交流委員会	・「ひらめき☆ときめきサイエンス」講座の開催	・「ひらめき☆ときめきサイエンス」講座の開催	・「ひらめき☆ときめきサイエンス」講座の開催	・「ひらめき☆ときめきサイエンス」講座の開催	・蒲郡市図書館との交流事業の実施
				(13)	行動計画	2021	・科研費採択者による「ひらめき☆ときめきサイエンス」講座の開催	・科研費採択者による「ひらめき☆ときめきサイエンス」講座の開催	・科研費採択者による「ひらめき☆ときめきサイエンス」講座の開催	・科研費採択者による「ひらめき☆ときめきサイエンス」講座の開催	・蒲郡市立図書館との相互協力協定にもとづき、交流事業を実施する。 ・年2回（春・秋）相互に団体貸出を行う。 ・蒲郡市内の小中学生を対象としたコラボイベントを行う。
					振り返り	達成評価	C	C	C	C	
						評価理由	コロナ禍により開講を控えた。	コロナ禍により開講を控えた。	科研費採択の研究内容が「ひらめき☆ときめきサイエンス」講座に適していなかったため、実施せず。	科研費採択の研究内容が「ひらめき☆ときめきサイエンス」講座に適していなかったため、実施しなかった。	
						改善点	コロナの感染状況を鑑みて、開講するか否かを検討する。	・コロナの感染状況を鑑みて、開講するか否かを検討する。	・科研費採択研究が「ひらめき☆ときめきサイエンス」に適するか、内定後判断する。	・今年度開催した蒲郡市図書館との交流事業を次年度も行う。	
		7	起業家人材を育成すること	(13)	学生や生徒には起業経験、知的交流を深化し、地域の課題解決等に挑戦	1.学園 2.各校	・企業からの課題提示によるPBLを実施する科目の継続。問題解決力、起業マインドの育成。	・企業からの課題提示によるPBLを実施する科目の継続。問題解決力、起業マインドの育成。	・企業からの課題提示によるPBLを実施する科目の継続。問題解決力、起業マインドの育成。	・企業からの課題提示によるPBLを実施する科目の継続。問題解決力、起業マインドの育成。	・企業からの課題提示によるPBLを実施する科目の継続。問題解決力、起業マインドの育成。
					行動計画	2021	・モノづくり教養科目の継続	・モノづくり教養科目の継続と学びの質の検証 ・高学年における企業と一体となった課題解決授業の開講。	・モノづくり教養科目の継続 ・高学年における企業と一体となった課題解決授業の開講。	・モノづくり教養科目の継続と学びの質の検証 ・高学年における企業と一体となった課題解決授業の開講。	・モノづくり教養科目の継続 ・高学年における企業と一体となった課題解決授業の開講。
					振り返り	達成評価	A	A	A	A	
						評価理由	・PBL科目を継続できた。 ・半数程度の授業が企業出身の実務経験者で開講された。	・東郷製作所との産学連携によるPBL授業を開講・実施した。	・東郷製作所との産学連携によるPBL授業を開講・実施した。	・蒲郡市との官学連携によるPBL授業を実施し、蒲郡市庁舎内の案内看板をデザインし、更新された。 ・東郷製作所との産学連携によるPBL授業を開講・実施した。	
						改善点	・2022年度では高学年において実務に近い課題を企業とともに取り組む授業を開講する。	なし	なし	なし	

重点項目	重点項目別ビジョン	NO	基本戦略	NO	個別戦略	責任主体	2021年度の目標	2022年度の目標	2023年度の目標	2024年度の目標	5年後の到達目標（学校目標） （2025年度末）
国際交流	1. 海外から学生や生徒を積極的に受け入れ、地域の国際交流の推進力となります 2. 海外へ学生や生徒を派遣し、グローバル人材を育てます	8	海外からの留学生を積極的に受け入れること	(14)	地域と連携して、外国人人材が地域に就職・定着しやすい体制を構築	1.学園 2.各校 3.就職委員会	・国際交流センター所属の職員を中心とした、修業支援を継続する。	・国際交流センター所属の職員を中心とした、修業支援を継続する。	・国際交流センター所属の職員を中心とした、修業支援を継続する。	・国際交流センター所属の職員を中心とした、修業支援を継続する。	・国際交流センター所属の職員を中心とした、修業支援を継続する。
					行動計画	2021	・企業説明会実施する。採用実績がある企業や求人企業を調査し、説明会への参加を要請し実施する。 ・大学祭にて地域住民と交流する。	・企業説明会実施する。採用実績がある企業や求人企業を調査し、説明会への参加を要請し実施する。 ・大学祭にて地域住民と交流する。 ・蒲郡市国際交流センタとの連携強化	・企業説明会実施する。採用実績がある企業や求人企業を調査し、説明会への参加を要請し実施する。 ・大学祭にて地域住民と交流会する。 ・蒲郡市国際交流センタとの連携の検証	・企業説明会実施する。採用実績がある企業や求人企業を調査し、説明会への参加を要請し実施する。 ・大学祭にて地域住民と交流会する。 ・蒲郡市国際交流センタとの連携強化	・企業説明会実施する。採用実績がある企業や求人企業を調査し、説明会への参加を要請し実施する。 ・大学祭にて地域住民と交流会する。 ・蒲郡市国際交流センタとの連携の検証
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価	B	B	A	A	
						評価理由	・オンラインであるが3月に企業説明会を4日間のべ172社の参加で実施した。 ・コロナ禍であるため大学祭は開催延期をして3月にオンラインで実施したため、地元住民との交流はできなかった。	・企業説明会を実施した。 ・大学祭も対面で実施、地域住民との交流の機会を持った。	・企業説明会を実施した。 ・2月末に3年生対象に企業研究会を実施した。 ・大学祭も対面で実施、地域住民との交流の機会を持った。	・企業説明会を実施した。 ・10月、1月末に3年生中心に企業研究会を実施した。	
						改善点	・コロナ禍の状況を見極めつつ、外部との交流を正常化していく。	・2月末に3年生対象に企業研究会を実施した	なし	なし	
				(15)	優秀な留学生を確保するために、留学生が学習しやすい体制を整備・充実	1.学園 2.各校 3.グローバル展開推進委員会	・国際交流センター所属の職員を中心とした、修学支援を継続する。	・国際交流センター所属の職員を中心とした、修学支援を継続する。	・国際交流センター所属の職員を中心とした、修学支援を継続する。	・国際交流センター所属の職員を中心とした、修学支援を継続する。	・国際交流センター所属の職員を中心とした、修学支援を継続する。
					行動計画	2021	・日本語力が低い留学生に対して日本語の補習授業を実施する。 ・国際交流センターでの職員による日本語力指導 ・国際交流センター委員会において情報を共有する。	・日本語力が低い留学生に対して日本語の補習授業を実施する。 ・国際交流センターでの職員による日本語力指導 ・国際交流センター委員会において情報を共有する。	・日本語力が低い留学生に対して日本語の補習授業を実施する。 ・国際交流センターでの職員による日本語力指導 ・国際交流センター委員会において情報を共有する。	・日本語力が低い留学生に対して日本語の補習授業を実施する。 ・国際交流センターでの職員による日本語力指導 ・国際交流センター委員会において情報を共有する。 ・留学生に対する日本語科目について見直し「工学教養講座」など新科目の導入も行う。	・日本語力が低い留学生に対して日本語の補習授業を実施する。 ・国際交流センターでの職員による日本語力指導 ・国際交流センター委員会において情報を共有する。
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価	B	B	A	A	
						評価理由	国際交流センターの非常勤職員による日本語指導は実施した。	・国際交流センターの非常勤職員による日本語指導は実施した。	・国際交流センターの非常勤職員による日本語指導は実施した。 ・来年度以降の留学生向け日本語カリキュラムの改善を行った。	・国際交流センターの非常勤職員による日本語指導は実施した。 ・日本語力が低い留学生に対して日本語の授業を新たに実施した。	
						改善点	日本語力が低い学生に対しての補習を継続していく。	・非常勤職員による日本語指導を継続していく。	・非常勤職員による日本語指導を継続していく。 ・2024 年度入学生からの留学生対象日本語科目に日本語導入講座、工学教養講座が追加され、日本語 1、日本語 2 を習熟度別開講（初級・中級）することになった。	・非常勤職員による日本語指導を継続していく。 ・留学生を対象に1年前期「日本語1」、「日本語2」、2年前期に「日本語能力試験対策N2」を必修とした。	
				(16)	学業成績や資格外活動の状況等の的確な把握や在籍管理の徹底	2.各校	・総合教育センターを中心とした、修学支援を継続する。	・総合教育センターを中心とした、修学支援を継続する。	・総合教育センターを中心とした、修学支援を継続する。	・総合教育センターを中心とした、修学支援を継続する。	・総合教育センターを中心とした、修学支援を継続する。
					行動計画	2021	・留学生生活相談の専任スタッフとSAを人選し配置 ・留学生対象のオリエンテーションを実施する	・留学生生活相談の専任スタッフとSAを人選し配置 ・留学生対象のオリエンテーションを実施、内容の検証。	・留学生生活相談の専任スタッフとSAを人選し配置 ・留学生対象のオリエンテーションを実施、内容の改善	・留学生生活相談の専任スタッフとSAを人選し配置 ・留学生対象のオリエンテーションを実施する	・留学生生活相談の専任スタッフとSAを人選し配置 ・留学生対象のオリエンテーションを実施、内容の検証
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価	B	B	B	B	
						評価理由	・留学生専用相談の専用スタッフを配置できたが、SAを必要としている留学生の一部にSAを配置ができなかった。 ・オリエンテーションでは、新規に日本語テストを実施し、習熟度に合わせた日本語教育を実施した。	・留学生生活相談の専任スタッフを配置 ・留学生向け入学前教育を実施	・留学生生活相談の専任スタッフを配置 ・留学生向け入学前教育を実施	・留学生生活相談の専任スタッフを配置 ・留学生向け入学前教育を実施	
						改善点	・SAを必要としている留学生の全員にSAを配置できるようにする。	・専任スタッフとSAによる留学生支援を継続する。	・専任スタッフとSAによる留学生支援を継続する。	・専任スタッフとSAによる留学生支援を継続する。	
				(17)	短期留学の推進	1.学園					
					行動計画	2021					
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価					
						評価理由					
						改善点					

重点項目	重点項目別ビジョン	NO	基本戦略	NO	個別戦略	責任主体	2021年度の目標	2022年度の目標	2023年度の目標	2024年度の目標	5年後の到達目標（学校目標） （2025年度末）
		9	海外に対する発信力を強化すること	(18)	国内外区別せずに存在感を向上	1.学園 2.各校	・HPやSNSにて情報の発信。【毎月1本以上】 ・「留学生とのつどい」の実施【毎年】	・HPやSNSにて情報の発信。【毎月2本以上】 ・「留学生とのつどい」の実施【毎年】	・HPやSNSにて情報の発信。【毎月3本以上】 ・「留学生とのつどい」の実施【毎年】	・HPやSNSにて情報の発信。【毎月4本以上】 ・「留学生とのつどい」の実施【毎年】	・HPやSNSにて情報の発信。【毎月5本以上】 ・「留学生とのつどい」の実施【毎年】
					行動計画	2021	・日常の出来事を発信する。 ・日本語学校を訪問し、担当者との連携を密にし交流を深める。	・日常の出来事を発信する。 ・日本語学校を訪問し、担当者との連携を密にし交流を深める。 ・訪問校の検証	・日常の出来事を発信する。 ・日本語学校を訪問し、担当者との連携を密にし交流を深める。 ・訪問校の見直し	・日常の出来事を発信する。 ・日本語学校を訪問し、担当者との連携を密にし交流を深める。 ・訪問校の検証	・日常の出来事を発信する。 ・日本語学校を訪問し、担当者との連携を密にし交流を深める。 ・訪問校の検証
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価	C	A	A	A	
						評価理由	・月1回以上の情報発信ができなかった。 ・コロナ禍であり日本語学校への訪問ができなかった。 ・「留学生とのつどい」はコロナ禍のために規模を縮小して例年通り4月に実施した。	・日本語学校への訪問はできた。 ・4月22日に留学生を囲む集いを実施できた。	・日本語学校への訪問はできた。 ・4月22日に留学生を囲む集いを実施できた。	・日本語学校4校への訪問はできた。 ・5月9日に留学生を囲む集いを実施できた。 ・愛知国際学院留学生の見学を実施した。 ・8月に留学生対象のオープンキャンパスを実施した。	
						改善点	・今後、留学生の入国状況が改善が予測されるために、行動計画にもとづいた活動を進めていく。	・業者主催による日本語学校への出向をしていく。	・日本語学校への訪問を定期的に行う。	・日本語学校への訪問を定期的に行う。	
		10	日本人学生のグローバル意識を向上させること	(19)	語学教育・海外研修制度の整備	1.学園 2.各校 3.グローバル展開推進委員会	・学生の海外研修説明会の実施【年2回】	・学生の海外研修説明会の実施【年2回】 ・海外提携校への短期留学を実施。 ・海外提携校への短期留学の評価	・学生の海外研修説明会の実施【年2回】 ・海外提携校への短期留学を実施。 ・海外提携校への短期留学の評価	・学生の海外研修説明会の実施【年2回】 ・海外提携校への短期留学を実施。 ・海外提携校への短期留学の評価	・学生の海外研修説明会の実施【年2回】 ・海外提携校への短期留学を実施。 ・海外提携校への短期留学の評価
					行動計画	2021	・海外語学研修の単位認定の継続	・海外語学研修の単位認定の継続	・海外語学研修の単位認定の継続	・海外語学研修の単位認定の継続	・海外語学研修の単位認定の継続
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価	C	C	C	C	
						評価理由	・コロナ禍により海外研修が中止になったため。	・コロナ禍により海外研修が中止になったため。	・海外研修は実施できていない。	・海外研修は実施できていない。	
						改善点	・コロナ禍の状況を見極めつつ、まずは海外研修を正常化していく。	・コロナ禍の状況を見極めつつ、まずは海外研修を正常化していく。	・次年度より海外研修説明会を再開する	・次年度より海外研修説明会を再開する。	
				(20)	海外文化に興味を持たせるための仕組みの構築	1.学園 2.各校 3.グローバル展開推進委員会	・海外語学研修参加者による発表会に実施	・海外語学研修参加者による発表会に実施	・海外語学研修参加者による発表会に実施	・海外語学研修参加者による発表会に実施	・海外語学研修参加者による発表会に実施
					行動計画	2021	・短期留学生との交流会を実施。	・短期留学生との交流会を実施。	・短期留学生との交流会を実施。 ・ホームステイ受け入れ実施。	・短期留学生との交流会を実施。 ・ホームステイ受け入れ実施。	・短期留学生との交流会を実施。 ・ホームステイ受け入れ実施。
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価	C	C	C	C	
						評価理由	・コロナ禍により2020年度と2021年度と海外研修が中止になったことにより研修参加者が在学生にいないため。	・コロナ禍により海外研修が中止になったことにより研修参加者が在学生にいないため。	・海外研修は実施できていない。	・海外研修は実施できていない。	
						改善点	・コロナ禍の状況を見極めつつ、発表会および交流会の実施を検討していく。	・コロナ禍の状況を見極めつつ、発表会および交流会の実施を検討していく。	・海外研修説明会を再開し、発表会を実施する。 ・本学への短期留学生の受け入れを進める。	・海外研修説明会を再開し、発表会を実施する。 ・本学への短期留学生の受け入れを進める。	

重点項目	重点項目別ビジョン	NO	基本戦略	NO	個別戦略	責任主体	2021年度の目標	2022年度の目標	2023年度の目標	2024年度の目標	5年後の到達目標（学校目標） （2025年度末）
		11	多様かつ優れた教職員をそろえ、 学園の魅力を継続的に向上 していくこと	(21)	教職員の意欲が高まる人事給与マネジメントシステムにすること	1.学園 2.評価制度委員会					
					行動計画	2021					
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価					
						評価理由					
						改善点					
				(22)	各教職員の得意分野を活かし、個々の教職員の強みを引き出せるよう業務内容や配置を柔軟に見直し	1.学園 2.各校	・大学教員としての勤務形態の弾力化の検討。	大学教員としての勤務形態の弾力化の検討。	・大学教員としての勤務形態の弾力化の実績評価と改善。	・大学教員としての勤務形態の弾力化の実績評価と改善。	・大学教員としての勤務形態の弾力化の検討。
					行動計画	2021	・教職員満足度調査と結果の報告会を実施する。 ・教職員情報（得意分野、取得資格等）を調査する。	・データベースの作成および情報の整理をする。	・人事各校訪問にて管理監督者と次年度に向けた人事計画を検討する。	・各教職員の強みと学生生徒数、人件費、科目授業時間数などを考慮した教職員のバランスの取れた配置を計画する。 ・裁量労働制の運用と検証	・全教職員へ職場満足度に関するアンケートを実施する。
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価	C	C	A	A	
						評価理由	大学教員としての勤務形態の弾力化の検討できていない。	・大学教員としての勤務形態の弾力化の検討できていない。	・次年度より裁量労働制を導入することが決まり、説明会を実施した。	・裁量労働制は問題なく、運用されている。 ・1名裁量労働制でない教員は、時間外勤務の申請やシフトによる勤務をしている。	
						改善点	勤務形態の弾力化について検討をする。	・勤務形態の弾力化について検討をする。	・なし	・なし	
				(23)	働き方改革などによる生活環境の充実	1.学園					
					行動計画	2021					
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価					
						評価理由					
						改善点					
				(24)	教職員のキャリアパスに配慮し、多様な人材を積極的に登用	1.学園					
					行動計画	2021					
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価					
						評価理由					
						改善点					
				(25)	優れた教育研究力と意欲、人間性、能力を有する人材および女性・若手教職員の採用	1.学園					
					行動計画	2021					
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価					
						評価理由					
						改善点					
				(26)	職員研修制度の充実	1.学園 2.各校	・SD活動に係る研修会への参加	・SD活動に係る研修会への参加	・SD活動に係る研修会への参加	・SD活動に係る研修会への参加	・SD活動に係る研修会への参加
					行動計画	2021	・各課の業務向上が図れる研修会への参加	・各課の業務向上が図れる研修会への参加	・各課の業務向上が図れる研修会への参加	・各課の業務向上が図れる研修会への参加	・各課の業務向上が図れる研修会への参加
						2022		・各課の業務内容の見直し	・各課の業務内容の再構築	・各課の業務内容の見直し	・各課の業務内容の再構築
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価	B	B	A	A	
						評価理由	コロナ禍で一部開催が自粛された。 オンラインによる研修会に参加した（会計課、庶務課）。	・コロナ禍で一部開催が自粛された。 ・教職員連絡会での学長講演をSDと位置づけて実施した。	・私学事業団、他大学が実施するSD（学務、会計、広報、IR）に参加できた。	・私学事業団、他大学が実施するSD（学務、会計、広報）に参加できた。 ・学内のSD研修として、愛知県警による経済安全保障に関する講演会を実施した。	
						改善点	実際に集合する研修会へ参加を進める。	・私学事業団、他大学が実施するSD（学務、会計、広報、IR）積極的に参加する。	なし		

重点項目	重点項目別ビジョン	NO	基本戦略	NO	個別戦略	責任主体	2021年度の目標	2022年度の目標	2023年度の目標	2024年度の目標	5年後の到達目標（学校目標） （2025年度末）	
経営	1. 社会に信頼され、社会と共に歩み・成長します 2. 各校の独自性、自主性、自律性を尊重しながら、学園全体が丸となった運営を確立します 3. 未来を見据えて、経営を合理化し、新規事業に挑戦します 4. 長期ビジョンの実現に資する意欲的な教職員を育成します	12	学生、生徒及び教職員にとって魅力のある、持続可能な学園運営を実現するキャンパス等を整備すること	(27)	社会の変化や時代のニーズ等の変化を踏まえた教育の一層の高度化を目指した施設整備計画の策定	1.学園 2.各校	・学内ネットワークの整備・高速化。 ・遠隔授業実施に係る通信環境の整備。 ・自習室設置の検討	・学内ネットワークの整備・高速化 ・遠隔授業実施に係る通信環境の整備。 ・自習室設置に対する整備	・学内ネットワークの整備・高速化 ・遠隔授業実施に係る通信環境の整備。 ・図書館整備の検討	・学内ネットワークの整備・高速化 ・遠隔授業実施に係る通信環境の整備。 ・図書館整備の実績評価と改善	・学内ネットワークの整備・高速化 ・遠隔授業実施に係る通信環境の整備。 ・図書館整備の実績評価と改善	
					行動計画	2021	・補助金を活用した通信環境の向上を図る設備の導入	・補助金を活用した積極的な改修（トイレ・照明器具・空調）を計画し、実施する。	情報機器の入替	・全館カードキーによる入退室管理システム導入への検討	全館カードキーによる入退室管理システム導入への検討	
						2022						
						2023						
						2024						
					振り返り	達成評価	A	A	A	C		
						評価理由	・大学院進学者向けの自習室2部屋にプリンタを設置し、自習室の充実を図った。 ・補助金獲得による実習室の環境整備申請を行う。	・学内ネットワークの高速化整備が進んでいる。	・学術情報ネットワーク（SINET6）への接続ができています。	・予算の関係上、全館の入退出管理システム導入を延期した。		
						改善点	学生自習室の設置を検討する。	なし	なし	・6号館に入退出管理システム導入できるよう、学生数を増やす。		
					(28)	ICT活用教育等の新規需要に対する積極的な投資	1.学園 2.各校	・WiFi環境の充実 ・学内ネットワークの高速化	・WiFi環境の充実 ・学内ネットワークの高速化	・WiFi環境の充実 ・学内ネットワークの高速化	・WiFi環境の充実 ・学内ネットワークの高速化	・WiFi環境の充実 ・学内ネットワークの高速化
						行動計画	2021	・アクセスポイントの増設	・アクセスポイントの増設 ・学内ネットワークの検証	・アクセスポイントの増設 ・学内ネットワークの検討	・アクセスポイントの高速化 ・学内ネットワークの再構築	・アクセスポイントの高速化 ・学内ネットワークの検証
				2022								
				2023								
				2024								
				振り返り		達成評価	A	A	A	C		
						評価理由	アクセスポイントの増設ができた。	・アクセスポイントの増設ができた。	・6号館、7号館の基幹ネットワーク10 Gbps化、インターネット回線の専用線として10 Gbps（帯域保証10 Gbps）の環境整備	・6号館、7号館の基幹ネットワーク整備は凍結とした。		
						改善点	なし	なし	なし	・基幹ネットワーク整備ができるよう学生数を増やす。		
				(29)		学生や生徒、さらに教職員の健康・安全を確保するため実験・実技にあたっての安全管理体制を整備	1.学園 2.各校 3.教務委員会・各校の安全委員会	・学校内の危機管理体制の整備。 ・危機管理マニュアルの修正。	・学校内の危機管理体制の整備。 ・危機管理マニュアルの修正。	・学校内の危機管理体制の整備。 ・危機管理マニュアルの修正。	・学校内の危機管理体制の整備。 ・危機管理マニュアルの修正。	・学校内の危機管理体制の整備。 ・危機管理マニュアルの修正。
						行動計画	2021	・防災対策委員会による危機管理体制の見直し	・防災対策委員会による危機管理体制の見直し	・防災対策委員会による危機管理体制の見直し	・防災対策委員会による危機管理体制の見直し	・防災対策委員会による危機管理体制の見直し
					2022							
					2023							
					2024							
					振り返り	達成評価	A	A	A	A		
						評価理由	危機管理対策会議本部が設置され、コロナ対応ができた。	・危機管理対策会議本部によるコロナ対応を実施した。	・学生参加による防災訓練を実施できた。 ・コロナ感染症が5類に移行したことにより、危機管理対策会議の開催はなくなった。	・学生参加による避難訓練を実施できた。 ・コロナ感染症が5類に移行したことにより、危機管理対策会議の開催しなくなった。		
						改善点	なし	なし	なし	なし		
				(30)	各学校が有する強み・特色を生かし、学生・生徒に魅力的な学校・学科の再編（数的根拠に基づく新設・改廃等）	1.学園 2.各校	・入学定員の1.06倍の入学者（240名）に確保。	・入学定員の1.06倍の入学者（240名）に確保。	・入学定員の1.06倍の入学者（240名）に確保。	・140名を確保、さらに上をめざす。 ・入学定員の変更及び学科名変更の検討	・入学定員の変更届の提出 ・学科再編の検討	
					行動計画	2021	・分離横断型の教育体制の検討。	・定員充足率の状況を見据え、学科の再編を検討する。	・定員充足率の状況を見据え、学科の再編を検討する。	・定員充足率の状況を見据え、学科の再編を検討する。	・定員充足率の状況を見据え、学科の再編を検討する。	
						2022						
						2023						
						2024						
					振り返り	達成評価	C	C	C	C		
						評価理由	入学者が入学定員に達していない	・入学者が入学定員に達していない	・入学者が入学定員に達していない	・入学者が入学定員に達していない		
						改善点	オープンキャンパスの参加者増、出願者の増加を図る。	・「見える化」の促進。 ・オープンキャンパス、高校訪問で本学の魅力を発信する。姉妹校、留学生入学者増の対策	・「見える化」の促進。 ・オープンキャンパス、高校訪問で本学の魅力を発信する。姉妹校、留学生入学者増の対策	・2026年度入学生より、入学定員の変更を決定した。 ・オープンキャンパス、高校訪問で本学の魅力を発信する。姉妹校、留学生入学者増の対策		

重点項目	重点項目別ビジョン	NO	基本戦略	NO	個別戦略	責任主体	2021年度の目標	2022年度の目標	2023年度の目標	2024年度の目標	5年後の到達目標（学校目標） （2025年度末）
		13	時代の流れにあった学校・学部・学科・コース編成と魅力を伝える広報手段を確立すること	(31)	各学校の教育研究上の機能強化を推進するため、透明性・公平性を確保しつつエビデンスに基づき、各学校へ戦略的に予算を配分	1.学園					
					行動計画	2021					
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価					
						評価理由					
						改善点					
				(32)	学生や生徒募集を強化するために、新たな広報活動を組織的・戦略的に展開	1.学園 2.各校 3.広報委員会	・募集・入試システムを入れ替え、運用 ・雑誌やＨＰ、相談会などの予算の見直し・検証。	・募集・入試システムの検証。 ・雑誌やＨＰ、相談会などの予算の見直し・検証。	・募集・入試システムの検証 ・雑誌やＨＰ、相談会などの予算の見直し・検証。	・募集・入試システムの検証 ・雑誌やＨＰ、相談会などの予算の見直し・検証。	・募集・入試システムの検証 ・雑誌やＨＰ、相談会などの予算の見直し・検証。
					行動計画	2021	・学務システムと連動した入試システムの運用	・学務システムと連動した入試システムの検証	・学務システムと連動した入試システムの検証と評価	・学務システムと連動した入試システムの検証	・学務システムと連動した入試システムの検証と評価
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価	B	B	B	C	
						評価理由	定員充足に繋がっていない。	・システムの運用は検証したが定員充足につながっていない。	・システムの運用は検証したが定員充足につながっていない。	・入試システムが大学入試に対応しておらず、その都度データに作り直しをしなければならない。	
						改善点	募集方法への工夫が必要	・ターゲットを絞った募集活動を検討する。	・ターゲットを絞った募集活動を検討する。	・ターゲットを絞った募集活動を検討する。	
		14	機動的な運営体制を確立すること	(33)	学園本部と各学校の意思疎通の緊密化を図り「現場との対話」を基軸に据えて機動的な運営体制を確立	1.学園 2.各校					
					行動計画	2021					
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価					
						評価理由					
						改善点					
		15	地域・企業・団体との連携を強化して外部資金を獲得すること	(34)	同窓会（校友会）や企業との連携を強化し寄付金を獲得	1.学園 2.各校 3.就職委員会	・校友会から寄付金を受け入れ。 ・共同研究、受託研究の受け入れ。	・校友会から寄付金を受け入れ。 ・共同研究、受託研究の受け入れ。	・校友会から寄付金を受け入れ。 ・共同研究、受託研究の受け入れ。	・校友会から寄付金を受け入れ。 ・共同研究、受託研究の受け入れ。	・校友会から寄付金を受け入れ。 ・共同研究、受託研究の受け入れ。
					行動計画	2021	・特定公益増進法人の申請準備	・特定公益増進法人の申請	・大学基金の創設検討	・大学基金の創設検討	・大学基金の創設
						2022		・大学基金の創設検討			
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価	B	A	A	A	
						評価理由	受託研究 3 件、共同研究 5 件を受け入れた。	・共同研究4件、受託研究6件受け入れた。	・共同研究3件、受託研究5件受け入れた。	・共同研究2件、受託研究6件受け入れた。	
						改善点	校友会からの寄付金を受け入れられるよう、関係を強化する。	・特定公益増進法人の取得 ・大学基金の創設について検討を継続する。	・なし	・なし	
		16	ガバナンスを強化し、内部統制を充実すること	(35)	学校運営および教育研究活動の自主性・自律性を尊重すると共に、学園全体の共通課題に対するマネジメント機能を強化	1.学園 3.内部監査委員会					
					行動計画	2021					
						2022					
						2023					
						2024					
					振り返り	達成評価					
						評価理由					
						改善点					